

職員拡充を検討
サポートセンターは、正教員の指導員を1人増やして、個別学習支援員1人の計2人前体制を確保して

いながら、1人増やした。一斉授業の後の個別指導は昨年度、週5回、0.5コマになり、今年サポートセンターの利用者の増加が見込まれる。また、エコー

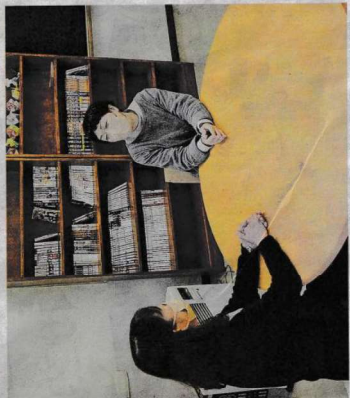
聴覚障害児の学習環境整備を求め、保護者の声も取り、正教員は「障害児の拡充を急務的な学習環境の確保に同じく検討してまいりたい」としている。指導員の後継員も、その

「サポートセンターは通って、この学校に復帰した子どももいる。授業が得意な子どもは、サポートセンターで学習し、指導員の欠けたら、自分の興味のある

あること、希望する時間を待つことが、指導員の厚手とつながる。多様なニーズに丁寧に対応できるようにしたい。」(木下愛子)

函館市教委は本年度、不登校の小中学生を支える教育機会提供の場を学校以外に広げている。今年4月に南北海道教育センター(瀬川町)に設置された学習拠点「サポートセンター函館」では、子どもたちが学習、工作、読書など、その日にやることを自ら選んで決め、集中して過ごしている。「自由度が高く、子どもが明るく楽しそうにしている」と保護者からも好評で、利用者は開設から7カ月で5倍に増えた。指導員らは「子どもたちが毎日充実できるような環境を整えたい」と語る。

不登校支援「サポートセンター函館」7カ月



南北海道教育センター内にある「サポートセンター函館」の図書コーナー

平日の午前10時、同センターには多くの教員で朝会が開かれる。約10人の子どもたちが、その日の予定を自分たちで立て、日履表に書き込む。午後5時まで学習や読書など

学習の予定を自分で決める。これは、午前中は読書、午後には学習を各自進め、15分ほど休憩の時間を挟む。子どもたちは、保護者の代女性性は、中学

高い自由度 保護者好感

利用者は6倍に
開設当初からこの利用者は、11月1日時点で小学生が1人、中学生が2人、計3人増えた。①子どもたちの自由度



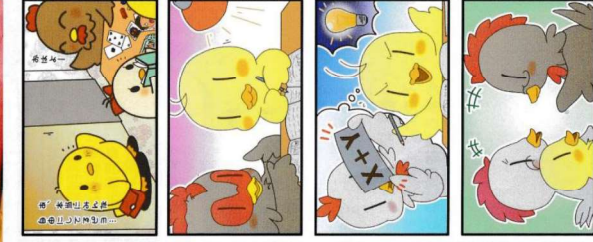
学習環境の整備に課題も

断り、学習意欲や木下愛子理容師は「サポートセンターは、子どもたちの学習意欲を高める場として、子どもたちが安心して学習できる場を提供したい」と話している。市教委は昨年度まで不登校の子どもたちの学校への復帰を目標に、同センターに小中学生対象の学習拠点「まなびば」を設置していた。同施設は普通教室とは異なり、一定の時間を机に向かっ

一般社団法人 函館圏フリースクール すまいる



いつまでも いつかえっても
なにをしても なにをしなくも



- 「フリースペース」(火～金 10時～15時)
自由に過ごせる居場所。安心して休んだり、やりたいことを見つけてチャレンジできます。
- 学習支援すまいるプラス (随時・要予約)
小・中・高認等の完全1対1個別学習支援です。子どもから若者のメンタルフレンドも行っています。訪問サポートも行っています。
- 個別相談
お子様への接し方や進学等情報、学校対応などご相談ください。保護者だけでなく、ご本人や関係者の方もご利用いただけます。
- 若者の居場所ヨリドコロ (金13時～15時)
高校生年代以降の居場所カフェです。出入り自由です。
お問合せ：北海道国際交流センター (0138-22-0770)

相談見学など気軽にお問い合わせください。



〒040-0001 函館市五稜郭町25-6 渡島教育会館内
TEL070-4156-3195(10時～15時)
E-mail:hakodate.smile@gmail.com
<http://hakodate-smile.jimdo.com/>



子どもに居場所 交流の場

塾＋フリースクール＋通信制高校＋駄菓子屋

【七飯】学習塾とフリースクール、通信制高校、駄菓子屋が一体化した「ぶれすた」が町鳴川に開設され、子どもたちの居場所になっている。不登校の子どもたちの支援に長年携わってきた運営メンバーは「小学生から高校生まで、どんな事情を抱えた子どもでも気軽に来ることができるといい」と意気込んでいる。



駄菓子屋を備えた「ぶれすた」。子どもの居場所になっ

「このお菓子、二つとんだらいい」
「ぶれすた」の駄菓子屋で、小学生ら10名ほどが次々と駄菓子を選んでいる。お菓子屋の一角には、通信制高校の生徒も居る。運営メンバーは「小学生から高校生まで、どんな事情を抱えた子どもでも気軽に来ることができるといい」と意気込んでいる。

七飯「ぶれすた」 誰でも気軽に来場を

ぶれすたは、七飯町の町鳴川に開設された。運営メンバーは「小学生から高校生まで、どんな事情を抱えた子どもでも気軽に来ることができるといい」と意気込んでいる。ぶれすたは、学習塾とフリースクール、通信制高校、駄菓子屋が一体化した施設だ。運営メンバーは「小学生から高校生まで、どんな事情を抱えた子どもでも気軽に来ることができるといい」と意気込んでいる。ぶれすたは、学習塾とフリースクール、通信制高校、駄菓子屋が一体化した施設だ。運営メンバーは「小学生から高校生まで、どんな事情を抱えた子どもでも気軽に来ることができるといい」と意気込んでいる。

ぶれすたは、学習塾とフリースクール、通信制高校、駄菓子屋が一体化した施設だ。運営メンバーは「小学生から高校生まで、どんな事情を抱えた子どもでも気軽に来ることができるといい」と意気込んでいる。ぶれすたは、学習塾とフリースクール、通信制高校、駄菓子屋が一体化した施設だ。運営メンバーは「小学生から高校生まで、どんな事情を抱えた子どもでも気軽に来ることができるといい」と意気込んでいる。

長沼の私立小 開校3カ月



学校祭を準備したロケットボール部。児童たちは練習中、指導員もあそびながら指導した。(長沼町提供)

体験学習の日々 児童成長

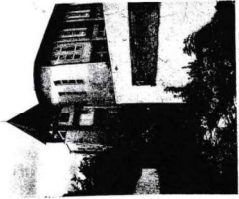
授業の半分 演劇、料理、物作り



学校祭 困り事も自分たちで解決

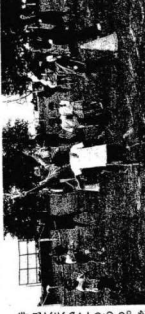
【長沼】私立長沼小の児童が、空想劇団「ロケットボール」を結成し、授業の半分を演劇、料理、物作りで過ごす日々を送っている。児童たちは、困り事も自分たちで解決しようとする姿勢が、周囲から賞賛されている。

今日は演劇の練習。児童たちは、1年生から6年生まで、それぞれ役割を担って練習中だ。演劇は、児童たちの成長を促すだけでなく、コミュニケーション能力を高める効果がある。児童たちは、練習を通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。



新しい3階建ての長沼小校舎。旧北北新聞社跡地に建てられた。

学校祭では、児童たちが、演劇、料理、物作りを通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。児童たちは、練習を通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。



児童たちは、練習を通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。児童たちは、練習を通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。児童たちは、練習を通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。

児童たちは、練習を通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。児童たちは、練習を通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。児童たちは、練習を通じて、自己肯定感を高め、自信を持って活動している。



詳しくはこちら

ゲームも、動画も、本人の自由

おうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着

小学4年生 鈴村れい。

プロフィール

名前 れい **年齢** 10歳

現在 小1の頃から引きこもり状態。半年前からフルスクールに通い始めた。

好きなもの ゲーム、料理、お菓子づくり、ぬい、ぬい、ぬい

苦手なもの 歯医(歯を抜いたときに痛くて怖かったから)、はやくいばうれん、まのこをくもること

れいちゃんのおうちで遊び・学び・育つ子の1週間

時間	月	火	水	木	金	土	日
6:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床
8:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床
10:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床
12:00	フルスクール	フルスクール	フルスクール	フルスクール	フルスクール	フルスクール	フルスクール
14:00	フルスクール	フルスクール	フルスクール	フルスクール	フルスクール	フルスクール	フルスクール
16:00	おやつ	おやつ	おやつ	おやつ	おやつ	おやつ	おやつ
18:00	家事手伝い(片付け)	家事手伝い(片付け)	家事手伝い(片付け)	家事手伝い(片付け)	家事手伝い(片付け)	家事手伝い(片付け)	家事手伝い(片付け)
20:00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強
ひとこと	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強

小学4年生の鈴村れい。おうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。れいちゃんのおうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。れいちゃんのおうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。

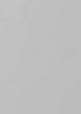
小学校への通学は、おうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。れいちゃんのおうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。

1週間の様子

週に1回はフルスクール。おうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。れいちゃんのおうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。

noteで発信中

鈴村さん親子のようすは、お子さんのnoteにて発信中。子どもたちの不登校の経緯やホー・ムスクールについて、くわしく書かれています。下記QRコードからぜひご覧ください。



おうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。れいちゃんのおうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。れいちゃんのおうちで遊び・学び・育つ子の1週間に密着。

9 ひきこもりの現状と課題①

(1) ひきこもりの現状

- 2016年の内閣府調査推計値では、**15~39歳が54万人**、2018年調査では**40~64歳が61万3千人**→**ひきこもり100万人時代**
- 2022年11月内閣府調査：全国の10~69歳の3万人に郵送やオンラインでアンケート調査し13,769人から回答を得た。
 - **15~64歳**でひきこもり状態にある人の推計値：**146万人**
 - 15~39歳は前回の1.57%から2.05%へ、40~64歳は前回の1.45%から2.02%へ増加、2%を超えており**50人に一人**の割合

9 ひきこもりの現状と課題②

(2) ひきこもりの現状(2022年内閣府調査続き)

□ひきこもりのきっかけ

・15~39歳:「人間関係」20.8% 「コロナの流行」18.1%

・40~64歳:「退職」44.5% 「コロナの流行」20.6%

□男女比: 女性が15~39歳で45.1%、40~64歳で52.3%(前回調査では男性が3/4を占めていた)と女性のひきこもりが顕在化

□期間: 15~39歳では「6か月~1年未満」が21.5%、40~64歳では「2~3年未満」が21.9%と多かった。

□「誰にも相談したくない」が15~39歳で22.9%、40~64歳で23.3%で、理由はいずれの年齢層でも「相談しても解決しないと思う」が半数を超えている。